

第96回 品質管理シンポジウム

日時：2013年6月6日(木)～8日(土)

会場：箱根ホテル小涌園

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後援：日本経済新聞社，一般社団法人 日本品質管理学会

※後援団体には現在依頼中

世界最高技術と日本品質を極める人材育成 ～持続可能な品質優位の経営～



特別講演

「日本品質と現場力」

遠藤 功氏

早稲田大学大学院商学研究科

(ビジネススクール) 教授

(株)ローランド・ベルガー日本法人会長



講演 1

「DNPの技術開発と人材育成」

高波 光一氏

大日本印刷(株)

代表取締役副社長



講演 3

「東京スカイツリー高速エレベータ
開発技術での人材育成」

原田 豊氏

東芝エレベータ(株)

顧問



講演 2

「オムロンヘルスケアの
技術開発と人材育成」

田中 孝英氏

オムロンヘルスケア(株)

執行役員

商品開発統轄部長



講演 4

「スーパーコンピューター「京」*
～10ペタフロップスへの挑戦～」

追永 勇次氏

富士通(株)

次世代テクニカルコンピューティング

開発本部長

*スーパーコンピューター「京」は理化学研究所と富士通の共同開発です。

*「京」は理化学研究所の登録商標です。

最新情報はこちらをクリック!!

第96回 品質管理シンポジウム

検索

第96回 品質管理シンポジウム 講演概要

6/6(木) 特別講演

「日本品質と現場力」

遠藤 功氏 早稲田大学大学院商学研究科(ビジネススクール)教授 (株)ローランド・ベルガー日本法人会長

「品質の国」という日本の代名詞が揺らいでいるように見える。品質はこれまでも、これからも日本企業の競争力の柱である。しかし、過去と同じような考え方で、同じような取り組みを繰り返していても、品質を担保することはできなくなってきている。新たな「日本品質」を創り上げることが、「品質の国-日本」を守る唯一の方策である。そこで鍵となるのが、日本企業の強みである「現場力」だ。「現場力」を最大限に生かす組織を作るために必要なことは何かを具体的な事例を交えて解説する。



6/7(金) 講演 1

「DNPの技術開発と人材育成」

高波 光一氏 大日本印刷(株) 代表取締役副社長

DNP大日本印刷は、今年10月に創業137年を迎える。出版印刷からスタートしたが、「印刷技術」を応用発展させ、現在では、パッケージ、建材、エレクトロニクス製品、ICカード、電池部材、ライフサイエンスなどの分野にまで業容を広げてきた。そうした総合印刷会社として発展を続けてきたDNPの「技術開発」と「人材の育成」について紹介する。



6/7(金) 講演 2

「オムロンヘルスケアの技術開発と人材育成」

田中 孝英氏 オムロンヘルスケア(株) 執行役員 商品開発統轄部長

オムロンヘルスケアは、「地球上の一人ひとりの健康ですこやかな生活への貢献」を実践するために、全世界に向けて優れた商品・サービスの提供にチャレンジしている。このチャレンジを支えるものづくり改革に長年取り組んできたが、業務管理に主眼をおいた改善活動では品質も効率も一定以上に上がらないことを課題に感じていた。その課題に対する答えとして、人に着目した施策である「全体最適のプロジェクトマネジメント」に出会い、「人を中心とした」ものづくり改革に取り組んだ。今回はその事例を紹介する。



6/7(金) 講演 3

「東京スカイツリー 高速エレベータ開発技術での人材育成」

原田 豊氏 東芝エレベータ(株) 顧問

2012年5月にオープンした東京スカイツリーは世界最高の自立塔として大きな話題になっている。そこに東芝は大容量(40人乗り)で国内最高速(600m/毎分)のお客様向けの乗用エレベータを4台と、昇降行程が464mと日本最長の業務用エレベータを2台納入している。エレベータは何よりも安全が基本であり、その上でお客様には安心して快適にご利用いただけることが求められている。それを達成する為に今回の大容量、超高速の開発においても多くの難しい課題に挑戦してきた。その技術開発の背景と人材育成の実践について紹介する。



6/7(金) 講演 4

「スーパーコンピュータ「京」* ~10ペタフロップスへの挑戦~」

追永 勇次氏 富士通(株) 次世代テクニカルコンピューティング開発本部長

国家プロジェクトとして2006年から理化学研究所と共同開発を進めてきたスーパーコンピュータ「京」は、2011年に世界初の10ペタフロップス超えを達成し、性能世界一となった。この実現を目指して、高性能CPU(SPARC64™ VIIIfx)と10万個のCPUを繋ぐ通信ネットワーク(Tofu)の独自開発、更に、水冷方式も採用し、高い信頼性と省電力を達成し、2012年9月28日からは、一般利用者への共用が開始された。本講演では、開発を推進した立場から、「京」について紹介する。

*スーパーコンピュータ「京」は理化学研究所と富士通の共同開発です。

*「京」は理化学研究所の登録商標です。



品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしました。

しかしながら、最近の食品、宇宙開発、原子力、運輸、医療などの安全性を重視する分野や巨大技術分野で、記録的に大きな事故が発生しています。日本の強さであった品質や技術力にも陰りが見られることも見逃せません。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第85回・第95回
サムスン電子 常任顧問
Y. W. Lee 氏



第94回
東京都市大学 教授
涌井 史郎 氏



第93回
一橋大学大学院 教授
一條 和生 氏



第92回
中村ブレイス 社長
中村 俊郎 氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三 氏



第90回
山本化学工業 社長
山本 富造 氏



第89回
新日本製鐵 代表取締役会長
三村 明夫 氏



第89回
日本マクドナルド会長兼社長兼CEO
原田 泳幸 氏



第88回
小松製作所 代表取締役会長
坂根 正弘 氏



第87回
花王 前会長
後藤 卓也 氏



第87回
テルモ 代表取締役会長
和知 孝 氏



第86回
経済同友会 代表幹事
桜井 正光 氏



第84回
同志社大学 客員研究員
ロバートEコール 氏



第83回
経団連 名誉会長
奥田 碩 氏

品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2013年3月1日現在

- | | | | | |
|-------------------|------------------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 1 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 15 コーセル(株) | 26 (株)ジェイテクト | 40 日華化学(株) | 54 前田建設工業(株) |
| 2 アイシン精機(株) | 16 コニカミノルタ
ビジネステクノロジーズ(株) | 27 清水建設(株) | 41 (株)日科技連出版社 | 55 (株)前田製作所 |
| 3 (株)アドヴィックス | 17 コニカミノルタ
ホールディングス(株) | 28 積水化学工業(株) | 42 日産自動車(株) | 56 三島食品(株) |
| 4 (株)IHII | 18 (株)小松製作所 | 29 (株)セキソー | 43 日産車体(株) | 57 (株)村田製作所 |
| 5 阿波スピンドル(株) | 19 サンデン(株) | 30 ダイヤモンド電機(株) | 44 日本電気(株) | 58 (株)メイドー |
| 6 (株)MCシステムズ | 20 サンデンシステム
エンジニアリング(株) | 31 (株)竹中工務店 | 45 (株)日本科学技術研修所 | 59 名北工業(株) |
| 7 大塚化学(株) | 21 サンデン物流(株) | 32 (株)千代田グラビヤ | 46 (株)羽生田製作所 | 60 (株)安川電機 |
| 8 岡谷電機産業(株) | 22 サンワテック(株) | 33 (株)デンソー | 47 パナソニック(株) | 61 ヤマハリビングテック(株) |
| 9 オージー技研(株) | 23 (株)GSユアサ | 34 東海ゴム工業(株) | 48 日野自動車(株) | 62 (株)ユニバンス |
| 10 オムロン(株) | 24 (株)ジーシー | 35 トヨタ自動車(株) | 49 富士ゼロックス(株) | 63 (株)リコー |
| 11 鹿島建設(株) | 25 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 36 トヨタ自動車東日本(株) | 50 富士電機(株) | 64 リコーエレメックス(株) |
| 12 関西電力(株) | | 37 (株)豊田自動織機 | 51 フジミ工研(株) | 65 リコーロジスティクス(株) |
| 13 キヤノン電子(株) | | 38 トヨタホーム(株) | 52 べんてる(株) | |
| 14 (株)ケイ・シー・シー | | 39 長津工業(株) | 53 (株)保志 | |

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1** 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2** 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3** 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4** 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5** 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6** 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りますので不定期です）

入会費用 1口につき年額182,700円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと 1名様参加枠（無料）を確保できます。
2名様から特別価格（42,000円）でご参加いただけます。

問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（茂田／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

趣旨



岩崎 日出男 氏

近畿大学 名誉教授
第96回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

東日本大震災、福島原発事故の復興が長引く中、原子力発電の停止による電力エネルギーの供給危機に深刻な問題を抱えています。また、世界情勢の不安定、国内における政治経済の不透明さなど胸を痛める日々が続いております。景気後退局面からの脱却をめざし、金融政策緩和も注目される中、新興国のものづくりに対する実力はさらに増強し、世界市場において日本企業は益々きびしい経営環境に置かれています。

この局面において、日本企業は今まで以上に品質優位の経営と品質マネジメントの確立を加速させ、グローバル化へのビジョンを明確にしていかなければなりません。そのためには、日本企業の強みを生かした「世界最高技術のもとでのビジネス」、「世界初の新製品開発によるグローバル市場へのビジネス」、「グローバル品質と日本品質のブランド力を生かしたビジネス」、「デファクト・スタンダードをリードする匠のビジネス」さらには、「グローバル組織における開発力・技術力・現場力の強化」を柱とする日本企業の頭脳・世界最高技術を生かしたビジネスモデルを構築する必要があります。

いずれのビジネスモデルもその背景にあるのは、世界中

の顧客との等距離を意識した持続可能な品質優位の経営を実現するためのグローバル人材の育成が必要です。近年、このような人材育成拠点がシンガポールをはじめとする海外に移転している事実にも危機感があります。

- 1) 事業の価値創造を生み出すビジネスモデルの構築と次期経営幹部の育成
- 2) グローバル市場に向けた世界最高技術の確立と技術者の育成
- 3) グローバル組織の下での経営戦略策定能力
- 4) グローバル企業としての品質マネジメント推進能力
- 5) グローバル企業としての新たな品質保証システムの確立
- 6) グローバル組織における現地企業での開発力・技術力・現場力の向上

このような人材の育成によって、持続的に顧客価値創造を生み出す新たなビジネスモデルを確立することが可能と考えられます。

そこで、本シンポジウムでは、今日の厳しい経営環境の中で持続可能な品質優位の経営をめざし、世界最高技術と日本品質を極めるグローバル人材の育成について討論してみたいと思います。

本シンポジウムの の特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム		開催期日：2013年6月6日(木)～8日(土) 会場：箱根ホテル小涌園	
月日	時間	科目	講演者
6/6 (木)	19:30～20:40	<特別講演> 「日本品質と現場力」	遠藤 功氏 早稲田大学大学院商学研究科 (ビジネススクール) 教授 (株)ローランド・ベルガー日本法人 会長
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室(参加自由)	
6/7 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 役員
	8:40～8:50	<オリエンテーション> 「世界最高技術と日本品質を極める人材育成 ～持続可能な品質優位の経営～」	岩崎 日出男 氏 近畿大学 名誉教授 ※96QCS主担当組織委員
	8:50～9:50	<講演1> 「DNPの技術開発と人材育成」	高波 光一 氏 大日本印刷(株) 代表取締役副社長
	9:50～10:00	質疑・応答	
	10:00～10:20	休憩	
	10:20～11:20	<講演2> 「オムロンヘルスケアの技術開発と人材育成」	田中 孝英 氏 オムロンヘルスケア(株) 執行役員 商品開発統轄部長
	11:20～11:30	質疑・応答	
	11:30～12:20	昼食・休憩	
	12:20～13:20	<講演3> 「東京スカイツリー 高速エレベータ開発技術での人材育成」	原田 豊 氏 東芝エレベータ(株) 顧問
	13:20～13:30	質疑・応答	
	13:30～14:30	<講演4> 「スーパーコンピューター「京」* ～10ペタフlopsへの挑戦～」 *スーパーコンピューター「京」は理化学研究所と富士通の共同開発です。 *「京」は理化学研究所の登録商標です。	追永 勇次 氏 富士通(株) 次世代テクニカルコンピューティング 開発本部長
	14:30～14:40	質疑・応答	
	14:40～14:55	グループ討論の主旨説明	岩崎 日出男 氏 主担当組織委員
	15:00～17:50	グループ討論(1)	
18:00～19:00	夕食(立食)		
19:10～21:00	グループ討論(2)		
21:00～23:00	談話室(参加自由)		
6/8 (土)	8:30～9:45	グループ討論報告(10分×6班※予備15分)	司会：岩崎 日出男 氏 報告：各班リーダー
	9:45～10:00	休憩	
	10:00～11:30	総合討論	
	11:30～11:40	第96回 品質管理シンポジウム まとめ	岩崎 日出男 氏 主担当組織委員
	11:40～11:50	次回(97回)品質管理シンポジウム案内	圓川 隆夫 東京工業大学 教授 ※97QCS主担当組織委員
11:50～	昼食・解散		

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

材育成 ～持続可能な品質優位の経営～

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第96回品質管理シンポジウム担当組織委員



◎岩崎 日出男
近畿大学 名誉教授



圓川 隆夫
東京工業大学 教授



大久保 尚武
積水化学工業(株) 取締役相談役



中尾 眞
(株)ジーシー 代表取締役社長



宮村 鐵夫
中央大学 教授



山内 康仁
アイシン精機(株) 相談役

グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

次期経営幹部となるリーダーの育成

■リーダー：町野 利道（コーセー(株) 取締役会長）・内野 直明（日野自動車(株) 品質保証部 常務役員）

趣旨 今日日本企業が直面している問題の一つに、事業の価値を創造し、成長を促すと言った事業プロデューサー型の人材および将来の経営を担う人材が不足していることがあげられる。企業の飛躍を遂げるために、従来の常識にこだわらない、新たな発想と顧客創造を可能とする次期経営幹部を育成する有効な取り組みのあるべき姿を探りたい。すなわち、次期経営幹部に求められる人材とその育成のための戦略を考える。

論点

以下のマネジメントが出来る人材をどのように育成するか
①企業文化（組織風土）の継承とTQMの構築
②事業の価値創造を生み出すビジネスモデルの構築
③顧客価値創造を生み出すための品質戦略の構築

第2班

世界最高技術への挑戦と技術者育成

■リーダー：今野 勤（神戸学院大学 経営学部 教授）・藤本 高宏（㈱デンソー 品質管理部 TQM推進室 室長）

趣旨 世界最高技術および世界初の新製品開発によるグローバル市場への参入が新しいビジネスへと発展するが、その開発には様々な課題が存在する。特に、技術者のモチベーションと若手技術者の育成に関しては、フロンティア精神の高揚や高い目標へのチャレンジ意欲、さらには技術課題に対するリカバリーエネルギー、チームワークの確立などが重要課題となる。世界最高技術への挑戦とその技術者育成に対する取り組みを考える。

論点

①世界最高技術開発において、どのような専門分野のメンバーから成るプロジェクトチームを組むべきか？
②世界最高技術の開発において、プロジェクトメンバーに要求される意識、能力はなにか？
③世界最高技術の開発において、若手メンバーの育成はどうあるべきか？

第3班

経営戦略策定を可能にするグローバル組織の要件

■リーダー：太田 雅晴（大阪市立大学 大学院経営学研究科 教授）・斉藤 忠（岡谷電機産業(株) 経営企画室 室長）

趣旨 グローバル企業は、国別、地域文化別、全世界的な多種・多様な環境に対応しながら、現地の環境に適合する戦略を策定していかなければならない。このプロセスにおいて大切なことは、自社の特徴を生かした固有で持続的発展が可能な戦略を策定することにある。そこで、グローバル環境への対応を目指して経営組織の編成、経営資源の配分などの最適化を企画、実行し、グローバル経営戦略の策定ができる人材育成を中心に考える。その過程で、品質の再定義やニーズ・シーズ情報の共有体制も焦点となる。

論点

①グローバル環境下で自社の特徴を生かした固有で持続的発展が可能な経営戦略とは
②経営戦略策定のための品質再定義やニーズ情報などの収集・共有システム開発ができる人材育成はどうあるべきか
③確立したグローバル経営戦略を実行できる組織再編や資源最適配分ができる人材育成はどうあるべきか

第4班

グローバル企業としての品質マネジメント推進人材の育成

■リーダー：光藤 義郎（元 JUKI）・金井 克之（サンデン(株) STQM本部長 執行役員）

趣旨 グローバル企業が将来にわたって持続的成長を確実にしていくためには、対象とする全てのお客様に喜んで頂ける顧客価値を常に創造/提供し続け、それによって世界における自らの存在価値を維持/向上させていくしかない。これに王道はなく、やはりグローバルな視点に立った全社品質マネジメント(グローバルTQM)を地道に推進していくしかない。当然、このグローバルTQMを組織的/戦略的に推進していく優れた経営的センスと力量を持った人材の育成も喫緊の課題となっている。そこで、第4班では、グローバルTQMを、ローカル人材も巻き込みながら組織的/戦略的に企画・推進しているグローバルTQM推進者の育成をテーマとして取り上げ、そこに求められるセンスや力量、及びその育成プロセスのあり方について考える。

論点

①グローバルTQMの推進はどうあるべきか
②これを企画・実行し得る推進人材はどのようなセンスと力量が必要か
③その人の発掘や育成を阻害している要因は何か、そしてそれを打破するには

第5班

魅力的な製品・サービスを継続的に生み出す組織の確立

■リーダー：加藤 雄一郎（名古屋工業大学 大学院工学研究科 産業戦略工学専攻 准教授）・谷川 淳一（㈱リコー 品質本部 RICOH Quality推進センター 所長）

趣旨 昨今、我が国における様々な業種で不本意なことが起きている。各社に技術力はある。そのレベルは決して低くない。また、設定された目標がひとたび定まれば、これを実現する組織的な行動力もある。それなのになぜ、我が国における多くの業種が、苦境に立たされてしまうのか。たとえばiPhoneのような革新的な魅力商品を世界に先駆けて生み出すことができないのはなぜか。収益性ある事業の構築に向けて、魅力的な製品・サービスを継続的に生み出すための組織はどうあるべきかについて討議したい。

論点

①「技術に優れ、事業で負ける」という傾向性から脱却するための鍵は何か？
②魅力的な製品・サービスを継続的に生み出すための組織運営および部門間の連携はどうあるべきか？

第6班

グローバル組織における現場力の活性化

■リーダー：奥原 正夫（諏訪東京理科大学 経営情報学部 学部長）・大橋 甚吾（トヨタ自動車(株) TQM推進部 部長）

趣旨 グローバル戦国時代といわれている世界を取り巻く環境は、ますます過激化してきている。グローバル組織における現地企業の開発力・技術力、現場力の強化はますます重要となる。激変するグローバル環境で戦うための現場力の活性化には、企業組織全体が連結し、コミュニケーションの向上による組織密度を高め一体感を推進する必要がある。組織密度を高めグローバル時代における現場力を強力に進めるための戦略を考える。

論点

①激変するグローバル環境で戦うための、経営戦略のあり方と開発力・技術力・現場力の高め方
②現地企業における戦略実現のための現場イノベーションとチーム力の強化
③グローバル企業における問題解決力を強化する現地人材の育成方法

参加要領

■開催日時

2013年6月6日(木) 19:30~6月8日(土) 12:00
(6月6日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

■会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

■参加対象

企業の役員, 上級管理職の方々

■申込方法

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上, 郵送・FAXで下記宛お申し込みください。第1次〆切を4月22日(月)とさせていただきます。
一般財団法人 日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp

■参加費

- 一般 105,000円/1名(消費税込み)
- 本シンポジウム賛助会員会社 1名無料, 2人目から42,000円/1名(消費税込み)
- ※食事代(6月6日夕, 6月7日3食, 6月8日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚, 宿泊費, 交通費はご負担ください。
- ※JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)をいたします。
- 集合場所: 小田原駅 西口 改札口付近
※バス会社のバスガイドが案内板を持ってお待ちしております。
- 発車時間: 6月6日(木) 16:50発車 ※17:30ホテル到着予定
※発車の30分前にバスは到着いたします。
- 定員: 53名(乗車人数)
- ※先着順になりますので, 定員を越えてしまった場合は, 誠に恐れ入りますが, 各交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

第96回 品質管理シンポジウム 参加申込書

※太い野線内は必ずご記入ください。(参加者名簿は下記内容をもとに作成しますので正確にご記入ください。)

ふりがな 参加者名		会社名	
所属		役職	
所在地	〒		
E-mail			

※GDの事前討論のためにメーリングリストを設置いたしますので, 大文字, 小文字, -(ハイフン), _(アンダーバー)などの区別を明確にご記入ください。

●希望するGD班に ○ をつけてください。 ※第2希望も必ずご記入ください。ご記入がない場合, ご希望のGD班に編成されない可能性があります。

第1希望	・ 1班	・ 2班	・ 3班	・ 4班	・ 5班	・ 6班
第2希望	・ 1班	・ 2班	・ 3班	・ 4班	・ 5班	・ 6班

●開催期間中のご予定(下記の全ての事項にご記入ください)

部屋	<input type="checkbox"/> シングル希望(32,000円/2泊(消費税・サ込))	<input type="checkbox"/> 2人部屋でよい(18,000円/2泊(消費税・サ込))			
喫煙	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない			
食事	6月6日(木)	<input type="text"/> 時頃ホテルに到着の予定	夕食	<input type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要
	6月7日(金)	朝食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	昼食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	夕食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	6月8日(土)	朝食 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	昼食	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要	

●連絡担当者(お申込受付後「関係資料」をお送りする方)

会社名		事業所名		TEL	
担当部課・役職名		担当者名		FAX	
所在地	〒				
参加費	一般:	105,000円(消費税込) / 1名 ×	名 =		円
	シンポジウム 賛助会員会社:	1名無料, 2人目から42,000円(消費税込) / 1名 ×	名 =		円

※1社でのご参加が2名以上の場合は, お手数ですが当紙をコピーしてご記入ください。
※参加申込書を電子データでご希望の方は, 品質管理シンポジウム担当までご連絡ください。
※シンポジウム賛助会員は, 日科技連賛助会員とは異なりますのでご注意ください。

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当 行 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp